

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-129644

(43) 公開日 平成8年(1996)5月21日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 T 7/00 7/60		9061-5H	G 0 6 F 15/ 62 15/ 70	4 6 0 3 6 5

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平5-131091

(22) 出願日 平成5年(1993)5月7日

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(71) 出願人 000127178

株式会社イーゼル

東京都世田谷区北沢3-5-18

(72) 発明者 中嶋 立志

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ

ャープ株式会社内

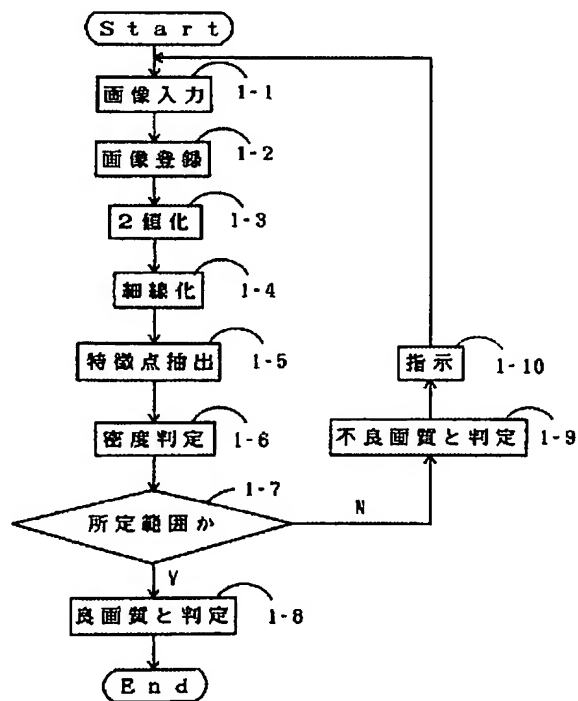
(74) 代理人 弁理士 山本 誠

(54) 【発明の名称】 指紋画像の画質判定方法

(57) 【要約】

【目的】 入力された画像画質の良否判定を行う指紋画像の画質判定方法を提供することを目的とする。

【構成】 指紋画像を入力して2値化し、この2値化画像を細線化して端点及び分岐点の指紋特徴点を抽出し、所定領域におけるこの端点及び分岐点の分布密度に基づき入力画像の良否判定を行う。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 指紋画像を入力し、この入力画像を 2 値化し、この 2 値化画像を細線化し、この細線化画像から端点及び分岐点を抽出し、この端点及び分岐点の所定領域の密度に基づき入力画像の良否判定を行うことを特徴とする指紋画像の画質判定方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、指紋照合等を行う際の指紋入力画像の画質判定方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 指紋照合において、入力画像の画質の良否は照合の精度に非常に大きな影響を与える。例えば、入力時に濃淡のむらがある場合や検出面が汚れている場合は照合精度は劣化する。しかしながら、現在のところ、迅速で簡単に入力された指紋画像の画質の良否を判定する方法は存在しないという問題がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 この発明はこのような従来の問題点を解消すべく創案されたもので、入力された画像の画質の良否を判定する指紋画像の画質判定方法を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】 この発明に係る指紋画像の画質判定方法は、入力した指紋画像を 2 値化し、この 2 値化画像を細線化して端点及び分岐点を抽出し、この端点及び分岐点の所定領域の密度に基づき入力画像の良否判定を行うものである。

【0005】

【作用】 この発明に係る指紋画像の画質判定方法によれば、指紋入力画像を 2 値化し、細線化することで端点等の指紋の特徴点を抽出し、所定領域におけるこの特徴点の分布密度にもとづいて入力画像の良否判定が可能となる。

【0006】

【実施例】 次に、この発明に係る指紋画像の画質判定方法の 1 実施例を図面に基づいて説明する。図 1 は本発明を実施するフローチャート、図 5 は本発明を実施する装置のブロック図である。本装置は、例えば中央処理部 CPU、画像処理部 IPU および画像メモリ IM から構成され、本装置の中央処理部 CPU、画像処理部 IPU および画像メモリ IM はシステムバス SB で接続され、さらに画像処理部 IPU および画像メモリ IM はローカルバス LB でつながれている。

【0007】 まず検出面に触れている指紋画像を入力装置（図略）で入力し（ステップ 1-1）、この入力画像を画像メモリ IM に格納する（ステップ 1-2）。この画像メモリ IM に格納した入力画像をローカルバス LB を介して画像処理部 IPU に取り込み、ここで 2 値化し（ステップ 1-3）、細線化をする（ステップ 1-

4）。

【0008】 次に、中央処理部 CPU はシステムバス SB を介してこの細線化画像から端点及び分岐点など特徴点を抽出しその個数を数える（ステップ 1-5）。端点及び分岐点等の抽出は、各々の細線化画像が 8 連結において連結数が 1 の場合は端点、連結数が 3 または 4 の場合は分岐点と判断することにより算出する。

【0009】 そして、これらの数が所定領域 A にどれだけ分布するか、つまり、分布密度を中央処理部 CPU で計算するものである（ステップ 1-6）。端点等の適正な分布密度は経験上判明しており、これに許容範囲として上限値及び下限値を考慮し、この両限値間を所定範囲とするものである。そして、これら指紋特徴点の分布密度が所定範囲内か否かの判断を中央処理部 CPU で行う（ステップ 1-7）。

【0010】 図 2 は入力画像の画質が良好な場合の細線化画像で、この場合所定領域 A に含まれる特徴点の分布密度は適正である。しかしながら、検出面に汚れ等又は指紋面に汚れが付着している場合は、図 3 に示すように汚れの細線化図形が残ってしまい、特徴点の分布密度は所定範囲を越えてしまうことになる。

【0011】 また、指紋面が湿き過ぎている場合は検出面と指紋面の密着度が低下するため、指紋パターンが画像として充分入力されず図 4 に示すようににかすれてしまい、端点及び分岐点の抽出ができない。このような場合は、特徴点の数は所定範囲を下回ることになる。

【0012】 そして、ステップ 1-7 で所定範囲内と判断された場合は、ステップ 1-8 に至り、画質良好と判断される。しかしながら、ステップ 1-7 で所定範囲内に納まらない場合は、ステップ 1-9 に至り不良画質と判断される。このような場合は、例えばステップ 1-10 で入力者に再入力の指示がなされる。

【0013】 この場合、ステップ 1-2 で登録された指紋画像は消去され、入力者が指示に従って再入力を行った画像が登録される。そして、ステップ 1-7 で特徴点の分布密度が所定範囲に含まれ、ステップ 1-8 で良画質と判定されるまで、上記の処理が繰り返されることになる。良画質と判定されると、ステップ 1-2 で画像メモリ IM に登録された指紋入力画像に基づいて照合判定が行われる。

【0014】

【発明の効果】 以上のように、この発明に係る指紋画像の画質判定方法は、入力した指紋画像を 2 値化し、この 2 値化画像を細線化して端点及び分岐点を抽出し、この端点及び分岐点の所定領域の密度に基づき入力画像の良否判定を行うので、迅速かつ簡単な方法で指紋画像の画質の良否判定が可能という効果を有する。これによって、最終的には適正な入力の実現され、正確な指紋照合が行われる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の1実施例を示すフローチャートである。

【図2】良画質の例を示す図である。

【図3】汚れによる不良画質の例を示す図である。

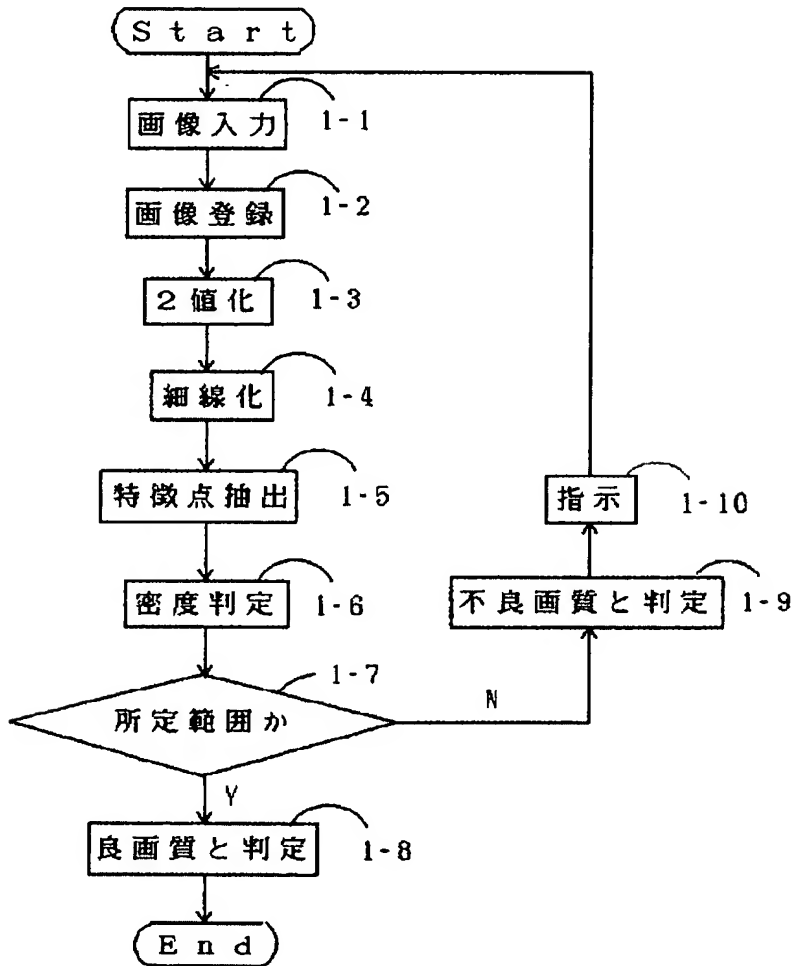
【図4】かすれによる不良画質の例を示す図である。

【図5】本発明を実施する装置のブロック図である。

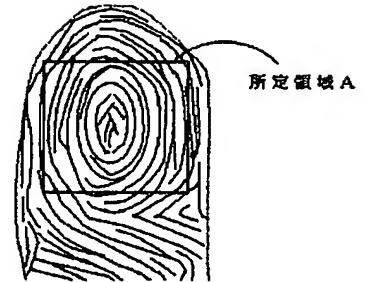
【符号の説明】

CPU 中央処理部
I P U 画像処理部
I M 画像メモリ
S B システムバス
L B ローカルバス
A 所定領域

【図1】



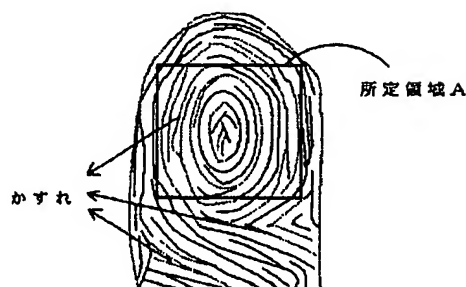
【図2】



【図3】



【図4】



BEST AVAILABLE COPY

【図5】

